

# 令和7年度第11回定例会

## 八王子市教育委員会議事録（公開）

日	時	令和7年11月8日（土）	午後1時00分
場	所	八王子市役所 事務棟8階	801会議室

# 第 1 1 回定例会議事日程

1 日 時 令和 7 年 1 1 月 8 日 (土) 午後 1 時

2 場 所 八王子市役所 事務棟 8 階 8 0 1 会議室

3 会議に付すべき事件

第 1 第 5 8 号議案 八王子市教育委員会事務局職員の懲戒処分に関する事務処理の報告について

第 2 第 5 9 号議案 損害賠償の和解に関する議案の調製依頼について

4 報告事項

- ・令和 7 年度 (2 0 2 5 年度) における食育の取組について (学校給食課)
- ・令和 8 年度 (2 0 2 6 年度) 教育課程編成に向けたキャリア教育について (教育指導課)

---

出席者

教 育 長	安 間 英 潮
教育長職務代理者	伊 東 哲
委 員	守 屋 香 里
委 員	橋 本 政 樹

教育委員会事務局出席者

学 校 教 育 部 長	松 土 和 広
学校教育部指導担当部長	上 野 和 広
学校教育部学校施設整備担当部長	八 木 忠 史
教 育 総 務 課 長	武 井 博 英
地 域 教 育 推 進 課 長	高 橋 健 司
学 校 施 設 課 長	平 井 智 也
学 校 給 食 課 長	東 郷 信 一
学 務 課 長	中 野 みどり

教 育 指 導 課 長	古 川 洋 一 郎
特別支援・情報教育担当課長	遠 藤 徹 也
教 職 員 課 長	櫻 田 俊 二
統 括 指 導 主 事	狩 野 貴 紀
統 括 指 導 主 事	志 村 亮 介
統 括 指 導 主 事	福 島 裕 子
生涯学習スポーツ部長	佐 藤 晴 久
生涯学習政策課長	田 島 裕 子
放課後児童支援課長	坂 野 優 一
ス ポ ー ツ 振 興 課 長	吉 森 研 吾
ス ポ ー ツ 施 設 管 理 課 長	吉 田 博
学 習 支 援 課 長	松 井 洋 一
文 化 財 課 長	中野目 泰 明
日本遺産推進担当課長	塩 澤 宏 幸
こ ども 科 学 館 長	飯 塚 由 則
図書館課長兼八王子市図書館長	堀 内 栄 史
図書館企画調整担当課長	大 澤 吉 隆
教育指導課指導主事	上 田 隆 司
教育指導課指導主事	安 東 奈 々
学校給食課課長補佐兼主査	安 齊 祥 江
教育指導課指導主事	波 多 野 尚 芳
教育指導課指導主事	木 村 奈 津 江
教育指導課指導主事	池 田 雅 孝
教育総務課課長補佐兼主査	岩 崎 隆 浩
教育総務課主任	田 中 美 緒
教育総務課主事	手 塚 早 紀
教育総務課主事	渡 邊 理 英

【午後 1 時 0 0 分開会】

○安間教育長 大変お待たせをいたしました。本日の出席は 4 名でありますので、本日の委員会は有効に成立をいたしました。

これより、令和 7 年度第 1 1 回定例会を開会いたします。

はじめに、本日の議事録署名委員の指名をいたします。本日の議事録署名委員は、守屋香里委員を指名いたします。よろしくお願いいたします。

本市では地球温暖化対策、省資源対策の一環として節電等に取り組んでおります。

本日の議事でございますが、第 5 9 号議案は審議内容が個人情報に及ぶため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 1 4 条第 7 項及び第 8 項の規定により、非公開といたしたいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○安間教育長 御異議ないものと認めます。

それでは、議事を進行いたします。

-----◇-----  
○安間教育長 日程第 1 第 5 8 号議案 八王子市教育委員会事務局職員の懲戒処分に関する事務処理の報告について、を議題に供します。

本案について、教職員課から説明願います。

○櫻田教職員課長 第 5 8 号議案八王子市教育委員会事務局職員の懲戒処分に関する事務処理の報告について御説明いたします。

本議案は、八王子市教育委員会の権限委任に関する規則第 4 条第 1 項に基づき、令和 7 年 1 0 月 2 2 日に教育長におきまして事務処理を行いましたので、同条第 2 項に基づき報告し、承認をお願いするものでございます。

それでは、議案関連資料に沿って説明いたします。1 枚おめくりください。

1 概要から御説明いたします。本市において、令和 6 年 1 0 月から公共交通機関利用者に対する通勤手当の実態調査を開始しました。その結果、届け出は公共交通機関利用であるが、実際には徒歩などで通勤をするなど、実態と異なる通勤手当を不正に受給していた職員 6 名のうち、課長職 1 名に対して令和 7 年 1 0 月 2 3 日付で地方公務員法第 2 9 条に基づく懲戒処分を行いました。

2 処分の内容についてです。八王子市職員懲戒分限等審査会から当該職員について

て、地方公務員法第29条第1項第1号、第2号及び第3号の規定に基づき、戒告処分とする旨の内申が教育委員会に提出されました。これを受け、教育長において当該内申の内容を踏まえ、審査会の内容と同一の処分を決定したものでございます。

また、(参考)としまして、懲戒処分1名のほか、主査1名、主任3名、主事1名に対し、令和7年10月23日付けで嚴重注意の人事措置を講じました。さらに管理監督者責任として、課長2名に対しても同日付で嚴重注意を行っております。

説明は以上でございます。

○安間教育長 只今、教職員課からの説明は終わりました。

本案について、御質疑また御要望等がございましたらお伺いいたします。いかがでしょうか。

○橋本委員 この件について、八王子医師会会報の中で副会長の意見が記載されていますので、それをもって私の意見としてさせていただきます。

読ませていただきます。「このような記事が出て、職員の戒めを重視した職場環境になると、労働意欲が萎縮してしまうのではないかと懸念しています。就職氷河期には、就職倍率10倍の難関を乗り越えてきた市職員も、最近は途中退職する方が増えているらしいし、そもそも新入職員でさえ1年も経たずに辞めてしまう人が多くなったと聞く。新入社員が早期退職してしまう傾向は、現代社会が揺らいでいる証拠でもある。しかし、地域包括ケアシステムを稼働させて、少子高齢化社会を支えるには行政の活躍が不可欠である。これまでも、いくつもの八王子市らしい事業が提案され、施行されてきた。こうした事業の中では、地域特性を生かした高齢者支援システムが作られ、住民全体の活動団体も増えている。また、国保、みまもりあいアプリ、AI傾聴窓口など、ユニークなIT事業も作られている。市役所が、仕事をやってもやらなくても同じという無気力な職場ではなく、未来へ挑戦し、かつ、業績を評価してもらえる職場であってほしいと思う」

これが数井副会長の御意見で、私たち医師会全体の意見としますので述べさせていただきます。

以上です。

○安間教育長 ありがとうございます。

ほかにございましょうか。

○守屋委員 御説明ありがとうございました。まずは、税金から支払われているものなので、しっかりしなければいけない、市としてしっかり収束させなければいけないというところで、御報告いただいたかと思います。ただ、やはり私たち保護者というかP連の中では、もちろん事が大きくてはいけないことですし、決められたことはやらなければいけないところですが、だからといってというところで、やはり決められた中ではありながらも、健康のためにきっと歩いていたのだろうというところもあります。「八王子市」と大きくニュースに取り上げられたので、何があったのかと、やはりそこは皆様も同じ思いで、悲しいというか、嫌な思いをされたのではないかと思いますので、揚げ足ではないですが、しっかりとしかるべきところを押さえていって、これからも押さえていきたいと自分自身でも思いましたので、今後ともよろしく願いいたします。

○安間教育長 ありがとうございます。

ほかにございますか。

よろしゅうございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○安間教育長 それでは、教育委員さんから職員に対する、今私、ある意味、励ましの言葉のように受け取りましたので、ぜひですね、ここに集まっている管理職の皆さん、部下に対して、今の教育委員さんの発言を伝えて、そして、だからこそ厳正にやらなければいけないのだということをね、ぜひ職員に指導してください。

それでは、本件についての賛否の御意見をいただきたいと思います。

よろしゅうございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○安間教育長 それでは、御意見はないようでございますのでお諮りをいたします。

只今議題となっております第58号議案については、提案のとおり承認することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○安間教育長 御異議ないものと認めます。

よって、第58号議案については、そのように承認することにいたしました。



○安間教育長　　続きまして、報告事項となります。

まずは、学校給食課から報告願います。

○東郷学校給食課長　　それでは、令和7年度における食育の取組について、担当の安齊課長補佐から御報告いたします。

○安齊学校給食課課長補佐兼主査　　それでは、スライドを御覧ください。令和7年度に学校給食で新たに行った食育の取組について、御報告をさせていただきます。

八王子市は、この「はちおうじ」の5つの頭文字になぞらえて、給食と食育で心と体を、「は、育む」、「ち、地産地消」、「お、おいしく手作り」、「う、うまみたっぷり」、「じ、地元の歴史・文化を大切に」、この5つのコンセプトで給食を提供しています。

八王子未来デザイン2040でも6つの都市像の実現に向けて、給食以外の取組も様々進めております。例えば、健康づくりの推進、産業振興、循環型社会の実現などの一助となっています。

年間190回提供している給食ですが、1回1回を献立と食育をリンクした年間計画に基づいて実施しています。全小・中学校の子どもたちに伝えられるよう取り組んでいます。例えば、日本遺産献立、SDGs献立など様々な取組をしています。

今年度実施した新たな取組です。戦後80年を節目に、小学校のときに空襲を経験された第七小学校の卒業生、石井さんのお言葉をいただきながら、戦時中の食事を体験する機会を設けました。

こちらは大学生とのコラボです。大学生が開発した食べられるスプーン、八王子産の米粉を使ってSDGsに貢献できる開発ですが、開発に至るまでの経過を直に大学生から学ぶことができ、実際に食べられるスプーンと一緒にカレーを食べました。子どもたちはアイデアが形になるまでの話を非常に興味深く聞いていました。

こちらは文化財課のコラボ「むかしむかしごはん」です。「はちはく」での企画展ですが、古代から近代にかけての食文化を紹介する中で、給食の献立の歴史も学びとれるような催しとなっています。夏休み中の自由研究にということで訪れた子どもがたくさんいました。そして文化庁の100年フードに認定された「かてめし」ですが、桑都ソースに次いで、今度かてめしのおむすびを商品化しました。関東中心としたスーパーマーケット約350店舗で売られたのですが、八王子で販売の店舗が少なかったため、また再販を予定されています。

こちら給食センターを活用した取組です。年々拡大をしております、令和7年度もこのような形で色々なところで給食のことを知っていただく機会を設けております。そして今年度初めて行ったのが、農家の方をお呼びした料理教室です。道の駅八王子滝山が食文化ミュージアムに認定されたことを機に、全5センターで行いました。八王子市の特産であるパッションフルーツを使った料理教室では、実際に農家の方に野菜を育てる苦労や喜びを伺いながら、「一番おいしい食べ方ってこうだよ」と教えていただきながら調理実習を行いました。ほかに、山ブドウを使った料理教室、恩方のブルーベリーを使った料理教室、磯沼ミルクファームさんのヨーグルトを使った料理教室、中西ファームさんの旬の野菜を使った料理教室を行い、どの回も全部好評で、あっという間に予約が埋まって、楽しむことができました。

こちらも新たな取組です。幼稚園の子どもたちを対象にした学校給食体験です。年長さんを対象に、入学後に始まる給食を楽しみにしてもらうことを目的に、給食当番さんを実際に経験したり、給食を味わう体験をしました。保護者の方々にも大変好評でしたので、来年度以降も継続していきたいと思っています。

令和元年度から始まった学童昼食は、今年91施設、全学童保育所の提供が実現しました。中学生ボランティアが小学生の配膳を行ってくれるなど、小学校と中学生の交流も生まれています。そして、学童に通っていない子どもたちにも夏休みの食を応援したいということで、給食センターを開放した「元気応援ランチ」、こちらも行っています。昨年度より参加者が倍に増え、好評をいただいています。また、栄養士による食育も行っており、親子で食を考える機会にもなっています。

最後に「はちっこキッチンフェスタ」です。今日も檜原で開催していますが、年々地元の町会の方や大学との連携が増えてきて、非常に親しまれて好評いただけるようになっていきます。11月22日は寺田で、11月29日は元八王子でまだこの後も開催されますので、ぜひお越しいただければと思います。今後も食育の効果をしつかり検証しながら、引き続き取組を拡充していきたいと思っています。

報告は以上となります。

○安間教育長 只今、報告は終わりました。

本件について、御質疑、御意見、御要望等はございますか。

○伊東委員 御説明ありがとうございました。大変、素晴らしい取組だと思っておりま

す。今日は特に配付資料などはなかったと思いますけれども、こうした取組、食育という教育活動のフィールドというのは、ある意味教材開発がなされているわけで、こうした実践の事例や、あるいはその取組の集積のようなものをまとめて、何か実践事例として取りまとめていらっしゃるのかどうなのかをお聞きしたいところです。

○安齊学校給食課課長補佐兼主査　ありがとうございます。毎年、行ったものは、次への反省や改善に生かせるよう、取組をまとめて教育委員会や学校に共有しております。市外からも、こういった取組を参考に同じようなことを広げたいとおっしゃる自治体もいらっしゃるのです、そういったところにも広げていけるよう、今後充実していきたいと思っております。

○伊東委員　ありがとうございます。学校などでよく気にしているのは、安齊課長補佐のような素晴らしい方が取り組んでいらっしゃる時は、このようなことは継続されるのですけれども、異動で人が変わって、担当者が変わったりして、その時に事業が継続して引き継がれていくためには、やはり実践事例や取組の記録など、そのようなものがしっかり集積されていくことが必要ではないかと思ったものですから、そういった指導事例集など、そのようなものがあるといいと思ったところです。

私からは以上です。

○安間教育長　褒められたと受け取ってください。

ほかに御意見、御要望等はございますか。

○守屋委員　御説明ありがとうございました。毎回、学校給食課には、今までの私たちが知っている「給食」ではなくて、新たなことがどんどん始まっていることに対して本当に感服するばかりで、前回お伺いした幼稚園からの給食体験というのも、絶対にこれ、一昔前に保幼小連携についてもとてもプラスになることであったり、不登校に対しての夏休みの食事提供など、このようなのもどんどん学校給食課はいろんなことをやっただいていてというのを強く感じます。今回、かてめしの販売を知らなかったのも、桑都ソースは買って食べていたのですが、まだ私の耳にも入ってなかったのも、残念ながら、次回の販売の時は、教えていただければ絶対買いに行きたいと思っております。よろしく願います。

○安間教育長　ほかにございましょうか。

よろしゅうございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○安間教育長       では、私から3点ほど要望です。

まず1点目は、産業振興の観点からなのですが、先ほどもお話がございましたけれども、桑都ソースの開発をして、それを民間の方が売り出すようになったという、そういった価値もあるし、かてめしも商品化されるようになった。そういった点もどんどんアピールをしてもらいたい。一方で大きなイベントの時に、給食で出している揚げパンを市民の方に安価で提供していますよね。こんなにニーズがあるのだったら我々もやろうと行って、民間の人たちがそれを売り出してくれるようになった、このような成果もあって地域が活性化しているし、産業も振興しているのだという点、この辺りをぜひアピールしていただきたい。我々が市内全域にできている給食センターを使って、それを市民にどんどん還元していくことで、相乗効果で産業も振興していくと、その構造をぜひアピールしてもらいたいというのが1点。

2点目は、これは教育指導課にお願いしたいのですが、先ほどの食べられるスプーン、私3本ぐらい食べたのですけれども、あれ意外とおいしいのですよ。なので、ぜひそれを、先ほど料理教室の話が多くあったけれども、料理教室で終わらせると単なる調理実習になってしまうから、作るところから始まって、それをどのような形で調理をして、それをどうやって提供して行って、できれば諸経費よりも上回るだけの利益を得られるような、そのようなことを中学生あたりで考えてくれると、それは立派なキャリア教育になるのでね。せっかくそういった素材があるのですから、パッションフルーツ使った食べ物もありましたけれども、パッションフルーツを作っている地域だってあるわけで、その学校がそれをキャリア教育の中に入れる、そんな視点をぜひ、皆さんが伝播をしていただきたい。学校に対してお伝えしてもらいたい。これが2点目の要望です。

3点目は、先ほどありました、学童の子どもたちに中学生がボランティアで給食を配ったりしていただいています。そもそも不登校の子どもたちに「いつでも食べに来ていいよ」という、そのような体制がとれているのは、今日も御出席の橋本委員が所属する医師会からの多大な寄付のおかげでありまして、本当に感謝申し上げます。そして、子どもたちには、今どこまでできているのかわからないけれども、「そのような大人たちの思いで、こういう食事ができているのだよ」ということを

必ず伝えていくという、そのようなサイクルでやっているところが、ただ食べさせるだけではない意味があるのだろうということなのです。世知辛い世の中ですから、子どもに提供したり何なりすると、「それはお金がかかっているはずだから、その分のお金を取れ」などと言い出す人がいかなないので、ぜひそんなことは言わずにね、八王子市民全体で子どもたちのことを見守っているのだという、この八王子のいい風土でぜひ死守をしていただきたい。子どもが育つためだったら我々やりましようよと、まさに医師会の寄付というのは、そういった思いでやっていただいているものですから、ぜひその風土をこれからも八王子市は大事にしていきたい。

以上、3点要望しておきます。

それでは、本件は報告として承らせていただきたいと思います。

---

◇

○安間教育長　　続きまして、教育指導課から報告願います。

○志村統括指導主事　　それでは、令和8年度（2026年度）教育課程編成に向けたキャリア教育について、担当の木村指導主事より報告いたします。

○木村教育指導課指導主事　　市立学校では、令和8年度（2026年度）より全校でキャリア教育の充実を図ってまいります。キャリア教育については、概要を報告事項資料に、別紙1にはその詳細を示しておりますので、併せて御覧ください。

改めまして、キャリア教育とは、子どもたちが自分の良さや可能性に気づき、社会と関わりながら、自分らしい将来や生き方を思い描き、未来へ踏み出す力を育む教育です。自己理解や感情を調整する力、人と協力して社会とつながる力、課題を見つけ考えて解決する力、そして将来の目標を持ち、進む道を考える力など、社会を生き抜くための「生きる力」を育成することをめざしています。

そのために、義務教育9年間の学年段階に応じて、全ての教科や特別活動を通じ、系統的に学習をすすめます。それを踏まえ、八王子市では「実社会と接続する学びを通して『自分ごと』になる社会的な自立」を促す教育の実現をめざしております。地域とともに実践的な活動を重視し、児童・生徒が教科等の学習内容を生活経験にひもづけ、「生きた知識」となるキャリア教育を実践してまいります。

児童・生徒が社会的な自立を実現し、予測困難な時代を生き抜くためには、児童・生徒自身で、自分はこれからどのように生きていくのか、何を仕事としていくのか

を考えられるようにしなければなりません。そこで、それぞれの小中一貫教育グループごとに、小学校及び義務教育学校第1学年から中学校第3学年及び義務教育学校第9学年までの9年間を見通して、系統的・継続的に地域の教育力や資源、産業を最大限に活かした特色あるキャリア教育を推進いたします。

こうした令和8年度からのキャリア教育の推進を見据え、すでに行っている実社会と接続した学びの事例を紹介いたします。前方に示したスライドを御覧ください。

恩方中学校グループはキャリア教育を通して、義務教育9年間で「探究する力」、「表現する力」、「地域と関わる力」を系統的に育成することをめざしています。現在、恩方中学校では、地元農園や林業家、観光協会などの地域の方々と協働して学ぶ実践の場「恩方ラボ」において、生徒たちは地元のリアルな課題を見出し、「課題発見→仮説→実験・調査→発信」という取組を実践しています。生徒からは、「なぜこのゆず畑は、猪被害が多いのか」や「間伐材の再利用方法を探る」などといった課題が見出され、その探究に取り組みました。今後は、これまでも大切にしてきた近隣の伝統産業である和楽器や車人形についての学びの充実や、恩方地区の自然や地場産業・農産物を扱い、課題を探究する学習をすすめることで、自分たちの暮らす地域と共に地域の強みを活かし、地域の課題を見出して追究することに、恩方中学校グループ全体で取り組んでいけるよう検討しています。

長房小学校では、第6学年において、地域イベントに参画したキャリア教育に取り組んでいます。学校農園「長房ファーム」で栽培したサツマイモを地域推進会議である「長房の未来を考える会」の協力を得ながら、地域にある商業施設、コピオ長房にある「BASEL×TAKAO COFFEE コピオ長房」によって商品化されました。商品である「さくふわおいもフィナンシェ」は、10月25日に地域で開催された「長房地区ハロウィンパーティー」で販売しました。児童は、商品の販売にあたり、商品名やチラシ、看板等の考案を担い、地域とともに実践的な活動に携わりました。また、10月11日には、地元のファイナンシャルプランナーによる出前授業を開催し、ゲームを通して就職や起業、貯蓄等の将来設計について考える授業を体験しました。地元の企業や団体の人材と活かしながら、今後は長房中学校グループ全体に活動を広げ、キャリア教育を推進していく予定です。

四谷中学校の「ラベンダーポプリ製作と販売の取組」について御紹介します。四

谷中学校では、平成30年から地域の園芸ボランティアの方によって学校敷地内でラベンダーを栽培しています。地域と連携した消費者教育を実施したいという校長先生の思いから、令和5年度に学校運営協議会と連携を図り、地域園芸ボランティアの指導を受けて、ハンズ部がラベンダーポプリを作成しました。さらに令和6年度、7年度ともに、このポプリをハンズ部の生徒自身が販売し、用意した100個を完売することができました。実際に素材の収穫や製品の製作から販売まで携わった部員からは、「普段何気なくものを買っているけど、売るのが大変なことがわかった」という意見が上がり、生産者の苦労など、今まで気が付かなかった視点から新しい気づきを得たことがわかります。このような実体験を通した学びを部活動の取組だけにとどまらず、学校や四谷中学校グループ全体の子どもたちが自らの将来や生き方に関連させた消費者教育及びキャリア教育の取組となるよう、その在り方を検討しているところです。

最後に、七国中学校の取組です。特別支援学級の太陽学級の生徒が、八王子市にある株式会社榮太樓總本舗八王子工場で生産している「八王子キャンディー」のパッケージデザインの企画・立案・作成を行っています。実際に販売店を見学したり、地域のグラフィックデザイナーの方からパッケージデザインについて学んだりしながらデザインを考え、グループでプレゼンテーションを行いました。授業や発表会の様子は、七国小学校の特別支援学級のひばり学級の児童も見学しています。11月29日に行われる七国地区コンサートにて、こちらの5点のデザインの中から実際に販売されるデザインが企業より発表され、商品として販売が始まります。生徒からは、「最初は、うまくプレゼンできるか、という気持ちだけでしたが、次第に、この商品を選んでもらうにはどうすればよいか、そのためにもっと良いデザインはないか、と考えるようになった」などの声が挙がりました。これは課題解決に向けて、まさに生徒が自分ごととして取り組む姿といえます。このことから、地域と連携し、地域の教育力を活かした実践的な学習を通して、児童・生徒にとって生きてはたらく知識や技能を身に付け、社会的な自立を促すことが期待できます。

令和8年度からは、初めは段階的になってしまうとは思いますが、全ての市立学校でこのような実践的な学びが行われるよう、各グループで検討を進めております。

また、別紙2を御覧ください。こちらは、各小中一貫グループが、それぞれの地

域の強みや特色を踏まえ、令和8年度に実施するキャリア教育の具体的な取組として計画中的のものです。まさに現在、それぞれのグループで、地域の特色や地域の資源をどのように取り入れて実践的な学習を設定するかについて、検討しているところです。また、みなみ野小・中学校グループや南大沢中学校グループは、STEAM教育推進校としての取組から、その手法を活かした学習を計画しております。また、具体的にどのような題材を取り上げるかを検討中のグループもございます。

今後も、さらに各グループの小・中・義務教育学校間で連携を密に図り、より実践的なキャリア教育が実現できるよう準備を進めてまいります。教育委員会事務局として、全ての市立学校でのキャリア教育の充実に向け、各学校の思いに寄り添いながら支援し、令和8年度より計画を具現化できるよう進めてまいります。

私からの報告は以上です。

○安間教育長 只今、報告は終わりました。

本件について御質疑、御意見、御要望等はございませんか。

○伊東委員 御説明ありがとうございました。大変素晴らしい取組ができていると思っております。キャリア教育について少しだけお話したいのですが、キャリア教育は学習指導要領で明記されていることはされているのですが、実際にキャリア教育を行う時間というのは、授業の中ではキャリア教育という時間はないわけですよ。ですから、そのキャリア教育をどこでやるのかということがやはりとても重要で、ここをどのように学校で考えていただくか、教育課程編成権は校長先生が持っているわけですから、そこを教育委員会として校長先生方にどう働きかけるかということがとても重要かと思うのですね。

それで、この別紙1のところ質問なのですが、考え方はとてもいいのですが、黄色の横線にある特別活動、三層になっているところがあるのですが、移動教室と修学旅行も特別活動なのですね。これは、なぜここで移動教室と修学旅行を特別活動と分けて書いているのかというのが、少々混乱するのではないかと思います。特別活動の中の学校行事ですよ。ここを学校に示すときには特別活動として、おそらくこの下に書いてある特別活動、学級活動のことを言っているのではないかと思います。このあたり少し整理されたらどうかと思いました。

それから、お聞きした中でいくつか事例が出ていますよね。四谷中や七国中のは、

ほとんどアントレプレナーシップ教育という感じですよ。なので、起業を行って行くわけですから、アントレプレナーシップって今結構いろんなところでもやっていますけれども、学校に対してはそのような言葉を使った方が、もしかしたら校長先生方は、「ああそういうものなんだな」って理解しやすいかと思います。

それから、特別活動の中で見れば、特別活動の3本柱である人間関係形成と社会参画、自己実現という柱があるわけですが、ここの『自分ごと』っていう、いわゆる当事者意識というのを育成するのであればやはり社会参画というところのイメージというのが出てくる、あるいは自己実現という、この辺りの兼ね合いを明確にして、各学校に指導していくことが必要なのではないかと思いました。

○安間教育長 参考にしてください。

ほかに御質疑、御意見、御要望等がありますか。

○守屋委員 御説明ありがとうございました。地域を軸として動いてくださっていることを、別紙2を見て感じられたのですが、やはりその中でも、御説明ではありましたが、まだまだ一部の子だけが動いてやっている、だけと言ってしまうと語弊があるのですが、学校でも取り組んでいることですが、作ることや売ることって、私も実際に見たこともありますが、学年や全体でやっていることではまだまだなかったところが、今始まったところなので、御説明にもありましたように、これが段階的にしっかり進んでいけるように、見守っていただきたいと強く感じました。入口としては、やはり軸というところを学校の先生方が一生懸命考えてくださっているということ、あとは、やはり今までキャリア教育で1、2年生というとまた別ものだと、小学生低学年が別ものだと思われがちだったところも、しっかり順序だてて紐づけていくというところで、ここも、将来的にはもう少しその地域と絡ませながら、わかりやすくなると嬉しいと感想を持ちました。

以上です。

○安間教育長 ありがとうございます。参考にしてください。

ほかにございましょうか。

よろしゅうございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○安間教育長 とりかかり始めでね、本格的に教育課程に入れてやりましょうというの

は来年の話なのですが、もうここまで進んでいるということは、やはりこれまでの素材が多く学校にはあったのだということが分かると思います。当然のことながら、今ある手法である1つのことをしっかり深めて、先ほどの例でいうならば、四谷中はクラブでやっていますよね。だから一部の子で、そのようなことはもう当たり前なのですよね。そういった学校は、そこで得ている知見や手法を、段階的な流れではなく、他のものに応用できるような横の広がりを数年かけて考えいくといいのでしょうね。また、テーマの中では最初から広げて考えている学校もあるわけで、そうなってくると今度はその中のどこか重点的に深めていくような、そのノウハウを他に普及させていくというような、おそらく中学校グループごとによって特質って絶対に違うと思うので、ぜひその辺りを踏まえた上で指導、助言をしてください。要は、深めるのが先か、広げるのが先か、手順の違いですから、ぜひそれを見極めた上で、各学校に合った指導、助言をしてください。そして、校長先生方には「うちのグループはそのどっちなんだな」ということが、管理職が自覚しているような状態をぜひ作ってください。それによって、今後広がりを見せるといいますから、ぜひしっかりと学校には指導、助言、そして伴走をしてあげてください。

それでは、報告として承らせていただきたいと思います。

-----◇-----  
○安間教育長 以上で公開の審議を終わりますが、委員の方から何かございましょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○安間教育長 ないようでございます。

それでは、ここから非公開となります。大変恐縮ですが、傍聴の方々、御退席をお願いいたします。

【午後1時40分休憩】